

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

報告内容

令和7年度全国学力・学習状況調査の港区の結果について報告いたします。

1 調査概要

- (1) 実施日 令和7年4月17日(木)
- (2) 調査対象 小学校第6学年児童及び中学校第3学年生徒
- (3) 調査内容

① 小学校第6学年 国語・算数・理科・児童質問紙

② 中学校第3学年 国語・数学・理科・生徒質問紙

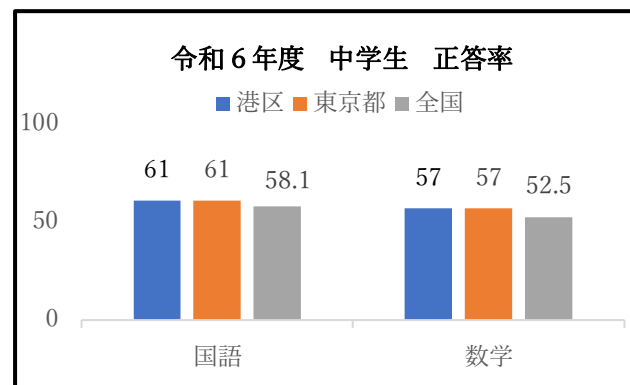
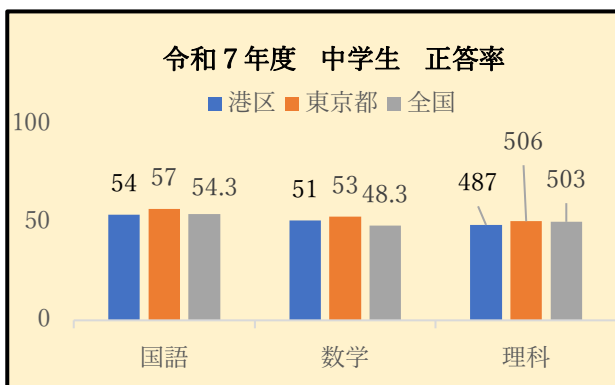
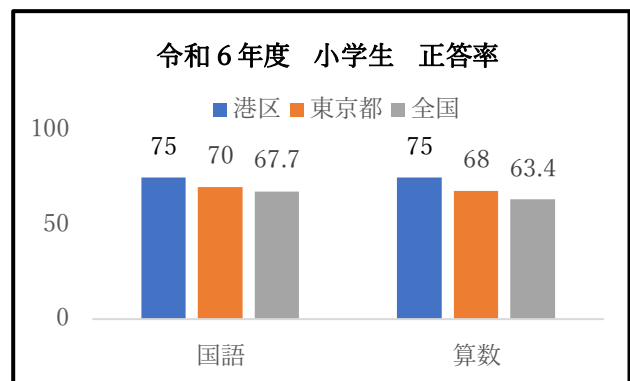
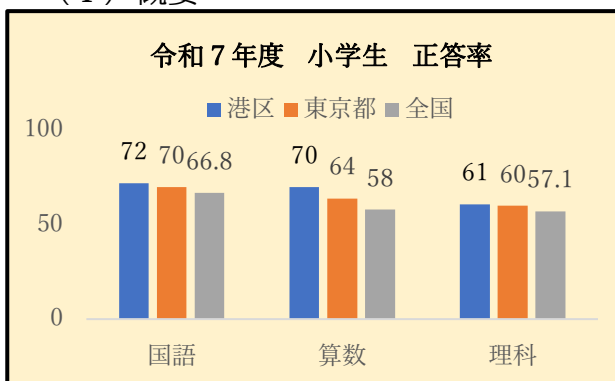
※質問紙は、調査対象の児童・生徒の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査(小学校71問、中学校70問)

※中学校の理科は、コンピューターで行うCBT(Computer Based Testing)方式が初めて本格導入され、採点方法が変更されたため、平均正答率ではなく、平均IRTスコアでの表記である。

平均IRTスコアとは、項目反応理論(IRT)に基づいて算出された、ある集団の能力(学力など)の平均値で、全国平均を500とした場合に、個々の集団や個人の学力が全国平均と比べてどの程度のレベルにあるかを具体的に表すものである。

2 教科に関する調査結果

(1) 概要



【小学校】

- ・ 3教科ともに全国及び東京都の平均正答率を上回っている。
- ・ 国語は東京都を2ポイント、全国を5.2ポイント上回っている。
- ・ 算数は東京都を6ポイント、全国を12ポイント上回っている。
- ・ 理科は東京都を1ポイント、全国を3.9ポイント上回っている。

【中学校】

- ・ 3教科ともに東京都の平均正答率または平均IRTスコアを下回っている。
- ・ 国語は東京都を3ポイント下回り、全国を0.3ポイント下回っている。
- ・ 数学は東京都を2ポイント下回り、全国を2.7ポイント上回っている。
- ・ 理科は東京都の平均IRTスコアを9ポイント下回り、全国を6ポイント下回っている。

(2) 各教科の詳細

① 小学校

【国語】

| 分類 | | 区分 | 対象問題数 (問) | 平均正答率(%) | | |
|-----------|--------------|----------------------|--------------|----------|---------|--------|
| | | | | 港区 | 東京都（公立） | 全国（公立） |
| 全体 | | | 14 | 72 | 70 | 66.8 |
| 学習指導要領の内容 | 知識及び技能 | (1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 2 | 78.6 | 77.9 | 76.9 |
| | | (2) 情報の扱い方にに関する事項 | 1 | 69.9 | 66.9 | 63.1 |
| | | (3) 我が国の言語文化に関する事項 | 1 | ※1 86.1 | 83.8 | 81.2 |
| | 思考力、判断力、表現力等 | A 話すこと・聞くこと | 3 | 72.1 | 69.9 | 66.3 |
| | | B 書くこと | 3 | 74.5 | 72.4 | 69.5 |
| | | C 読むこと | 4 | ※2 65.3 | 61.0 | 57.5 |
| 評価の観点 | | 知識・技能 | 4 | 78.3 | 76.6 | 74.5 |
| | | 思考・判断・表現 | 10 | 70.1 | 67.1 | 63.8 |
| | | 主体的に学習に取り組む態度 | 0 | | | |
| 問題形式 | | 選択式 | 9 | 71.9 | 68.7 | 64.7 |
| | | 短答式 | 3 | 80.8 | 80.0 | 78.5 |
| | | 記述式 | 2 | 62.2 | 59.3 | 58.8 |

小学校国語では、すべての区分で東京都、全国を上回っています。特に「**知識及び技能**」のうち「**我が国の言語文化に関する事項**」の平均正答率は、**86.1%※1**であり、全区分の中で最も高いです。

一方で、「**読むこと**」の平均正答率は**65.3%※2**であり、東京都を4.3ポイント、全国を7.8ポイント上回っていますが、分類「学習指導要領の内容」では、区の最低値であることから指導の工夫が必要です。具体的には、国語の授業で、児童が読む目的を明確にし、内容を整理しながら、読み深める活動が考えられます。

【算数】

| 分類 | 区分 | 対象問題数 (問) | 平均正答率(%) | | |
|-----------|---------------|--------------|----------|---------|--------|
| | | | 港区 | 東京都（公立） | 全国（公立） |
| 全体 | | 16 | 70 | 64 | 58.0 |
| 学習指導要領の領域 | A 数と計算 | 8 | 74.5 | 68.3 | 62.3 |
| | B 図形 | 4 | 66.7 | 61.2 | 56.2 |
| | C 測定 | 2 | 66.8 | 60.5 | 54.8 |
| | C 変化と関係 | 3 | ※3 73.7 | 64.9 | 57.5 |
| | D データの活用 | 5 | 72.4 | 67.6 | 62.6 |
| 評価の観点 | 知識・技能 | 9 | 75.9 | 70.9 | 65.5 |
| | 思考・判断・表現 | 7 | 62.0 | 54.4 | 48.3 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 0 | | | |
| 問題形式 | 選択式 | 6 | 79.8 | 73.5 | 67.2 |
| | 短答式 | 6 | 73.6 | 69.3 | 64.0 |
| | 記述式 | 4 | ※4 49.0 | 40.7 | 34.9 |

小学校算数では、全ての区分において東京都、全国を上回っています。特に学習指導要領の領域のうち「C 変化と関係」は、東京都と比較すると8.8ポイント、全国と比較すると16.2ポイント上回っています。※3

分類「問題形式」のうち、区分「記述式」は平均正答率が49%※4でした。東京都、全国を上回っていますが、昨年度に引き続き、区分別で区の最低値を記録しているため、一層の指導の工夫が必要です。具体的には、学習した用語を日常的に使って考え説明する活動や、根拠・理由を言葉や数を用いて筋道を立てて記述させる活動などが考えられます。

【理科】

| 分類 | | 区分 | 対象問題数 (問) | 平均正答率(%) | | |
|--------------|------|----------------|--------------|----------|---------|--------|
| | | | | 港区 | 東京都（公立） | 全国（公立） |
| 全体 | | | 17 | 61 | 60 | 57.1 |
| 学習指導要領の区分・領域 | A 区分 | 「エネルギー」を柱とする領域 | 4 | ※5 53.8 | 49.9 | 46.7 |
| | | 「粒子」を柱とする領域 | 6 | 54.2 | 53.7 | 51.4 |
| | B 区分 | 「生命」を柱とする領域 | 4 | 56.9 | 54.1 | 52.0 |
| | | 「地球」を柱とする領域 | 6 | ※6 68.8 | 69.1 | 66.7 |
| 評価の観点 | | 知識・技能 | 8 | 60.5 | 57.7 | 55.3 |
| | | 思考・判断・表現 | 9 | 61.3 | 61.2 | 58.7 |
| | | 主体的に学習に取り組む態度 | 0 | | | |
| 問題形式 | | 選択式 | 11 | 60.4 | 57.9 | 54.7 |
| | | 短答式 | 4 | 70.1 | 70.6 | 69.7 |
| | | 記述式 | 2 | 45.4 | 46.6 | 45.2 |

小学校理科では、全体の平均正答率は東京都、全国を上回っています。特に学習指導要領の区分・領域のA区分「『エネルギー』を柱とする領域」は、東京都を3.9ポイント、全国を7.1ポイント上回っています。※5

B区分「『地球』を柱とする領域」は平均正答率が68.8%※6であり、全国は2.1ポイント上回っていますが、東京都より0.3ポイント下回っているため、授業で扱う内容を、児童自身が日常生活や地球上で発生する自然現象、出来事と結びつけるなどの学習内容との関連付けが重要です。例として天候の変化を学ぶ際には、自分の住んでいる地域の気象予報と関連付けたり、地震のメカニズムを学ぶ場合には、防災訓練や実際の災害ニュースと結びつけたりする活動が考えられます。児童の日常と関連付けすることで、関心を引き出し、深い理解を促すことにつながります。

② 中学校

【国語】

| 分類 | | 区分 | 対象問題数 (問) | 平均正答率(%) | | |
|-------------------|----------------------|---------------------|--------------|----------|---------|--------|
| | | | | 港区 | 東京都（公立） | 全国（公立） |
| 全体 | | | 14 | 54 | 57 | 54.3 |
| 学習指導 要領の 内容 | 知識及び 技能 | (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 2 | ※7 48.6 | 51.7 | 48.1 |
| | | (2) 情報の扱い方に関する事項 | 0 | | | |
| | | (3) 我が国の言語文化に関する事項 | 0 | | | |
| | 思考力、 判断力、 表現力等 | A 話すこと・聞くこと | 4 | 52.9 | 55.0 | 53.2 |
| | | B 書くこと | 5 | ※8 52.5 | 56.5 | 52.8 |
| | | C 読むこと | 3 | ※7 62.8 | 65.0 | 62.3 |
| 評価の観点 | | 知識・技能 | 2 | 48.6 | 51.7 | 48.1 |
| | | 思考・判断・表現 | 12 | 55.2 | 58.1 | 55.3 |
| | | 主体的に学習に取り組む態度 | 0 | | | |
| 問題形式 | | 選択式 | 8 | 64.6 | 67.1 | 63.9 |
| | | 短答式 | 2 | 70.8 | 75.5 | 73.6 |
| | | 記述式 | 4 | 25.3 | 28.2 | 25.3 |

中学校国語では、全体の平均正答率は東京都より3ポイント、全国より0.3ポイント下回っています。全ての区分において東京都より下回っていますが、分類「学習指導要領の内容」の区分「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」及び区分「C読むこと」は全国平均正答率を上回っています。※7

区分「B書くこと」は他の区分に比べて東京都の平均正答率との差が大きく、4ポイント下回っている※8ことから、指導の工夫が必要です。自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にしたり、効果的な文章構成のパターンを学んだりすることが大切です。また、学習の振り返りの際、学んだことを論理的に説明するよう取り組むことも効果的です。

【数学】

| 分類 | | 区分 | 対象問題数 (問) | 平均正答率(%) | | |
|---------------|----------|---------------|--------------|----------|---------|--------|
| | | | | 港区 | 東京都（公立） | 全国（公立） |
| 全体 | | | 15 | 51 | 53 | 48.3 |
| 学習指導要領の 領域 | A 数と式 | | 5 | 46.6 | 49.1 | 43.5 |
| | B 図形 | | 4 | 49.4 | 51.4 | 46.5 |
| | C 関数 | | 3 | 51.5 | 52.4 | 48.2 |
| | D データの活用 | | 3 | ※9 58.4 | 63.1 | 58.6 |
| 評価の観点 | | 知識・技能 | 9 | 56.1 | 58.3 | 54.4 |
| | | 思考・判断・表現 | 6 | 42.6 | 45.4 | 39.1 |
| | | 主体的に学習に取り組む態度 | 0 | | | |
| 問題形式 | | 選択式 | 3 | 56.8 | 58.2 | 54.0 |
| | | 短答式 | 7 | 53.8 | 56.3 | 52.0 |
| | | 記述式 | 5 | 42.7 | 45.7 | 39.6 |

中学校数学では、区分「B 図形」、「C 関数」、「D データの活用」以外は全国を上回っています。全ての区分において、東京都を下回っています。

区分「D データの活用」は、平均正答率が東京都、全国を下回っている※9ことから、指導の工夫が必要です。データの活用は、生徒がデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断できるよう指導することが大切です。具体的には、「クラスで人気の給食のメニュー調査」など生徒の身近なものを課題とすることで、データ収集から考察し判断するまで意欲的に取り組むことができ効果的です。

【理科】

| 問題番号 | 問題の概要 | 出題の趣旨 | 学習指導要領の領域 | | | | 評価の観点 | | | 問題形式 | | | 正答率(%) | | | 問題の難易度 |
|-------|--|---|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-------|----------|---------------|------|-----|-----|-------------|---------|--------|--------|
| | | | 「エネルギー」を柱とする領域 | 「粒子」を柱とする領域 | 「生命」を柱とする領域 | 「地球」を柱とする領域 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | 選択式 | 短答式 | 記述式 | 港区 | 東京都（公立） | 全国（公立） | |
| 1 (4) | 生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する | 水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる | | | (3) (9) ⑦ | | ○ | | | ○ | | | 31.3 | 31.1 | 29.7 | 5 |
| 3 (1) | 設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する | 仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができるかどうかをみる | (3) (7) ⑦ | | | | | ○ | | ○ | | | 37.4 | 35.1 | 34.9 | 5 |
| 6 (1) | 牧野富太郎の『ノジギク』のスケッチから分かるスケッチの技能について、適切なものを選択する | スケッチから分かることを問うことで、スケッチに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる | | | (1) (7) ⑦ | | ○ | | | ○ | | | 69.1 | 67.1 | 65.9 | 4 |
| 6 (2) | 牧野富太郎の『サクユリ』のスケッチから、サクユリの【茎の横断面】、【根】として適切なものを判断し、選択する | スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の茎、葉、根のつくりに関する知識及び技能を活用して、植物の茎の横断面や根の構造について適切に表現できるかどうかをみる | | | (3) (4) ⑦ | | | ○ | | ○ | | | 43.1 | 39.5 | 41.9 | 4 |
| 8 (2) | Aさんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで示す | 大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できるかどうかをみる | | | | (2) (4) ⑦ | | ○ | | | | ○ | 27.7 | 19.0 | 18.1 | 5 |
| 1 (6) | 水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する | 科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる | | (2) (7) ⑦ | | | | ○ | | | | ○ | <u>72.1</u> | 80.3 | 79.4 | 3 |
| 4 (2) | 「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する | 火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる | | (2) (7) ④ | | | ○ | | | ○ | | | <u>90.2</u> | 95.3 | 92.8 | 2 |
| 7 (1) | 小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造と同じ構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する | 小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面において、共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈することができるかどうかをみる | | | (3) (9) ⑦ | | | ○ | | ○ | | | <u>27.3</u> | 36.0 | 34.8 | 5 |
| 8 (1) | 大地の変化に関する言い伝えを1つ選択し、その選択した言い伝えが科学的に正しいと判断するための理由を「地層を調べたときに何が分かればよいか」に着目して記述する | 地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がりを推定できるかどうかをみる | | | | (2) (4) ⑦ | | ○ | | | | ○ | <u>37.7</u> | 43.2 | 42.2 | 4 |

※中学校理科は、選択問題があり、実施人数が問題によって異なるため、各問においての正答率を示しています。

※全22問から特徴的な問題を取り出しています。

理科では、全22問のうち、以下の5つの問題において正答率が、東京都、全国よりもポイントが上回っています。

「4つの生物の動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する」

「設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する」

「牧野富太郎の『ノジギク』のスケッチから分かるスケッチの技能について、適切なものを選択する」

「牧野富太郎の『サクユリ』のスケッチから、サクユリの【茎の横断面】、【根】として適切なものを判断し、選択する」

「Aさんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで示す(記述式)」

また、正答率が東京都、全国を下回った主な問題は以下の4つです。

「水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する」

「『一酸化炭素は空気より軽い』という性質を基に、適切な避難行動を選択する」

「小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造と同じ構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する」

「大地の変化に関する言い伝えを1つ選択し、その選択した言い伝えが科学的に正しいと判断するための理由を『地層を調べたときに何が分かればよいか』に着目して記述する」

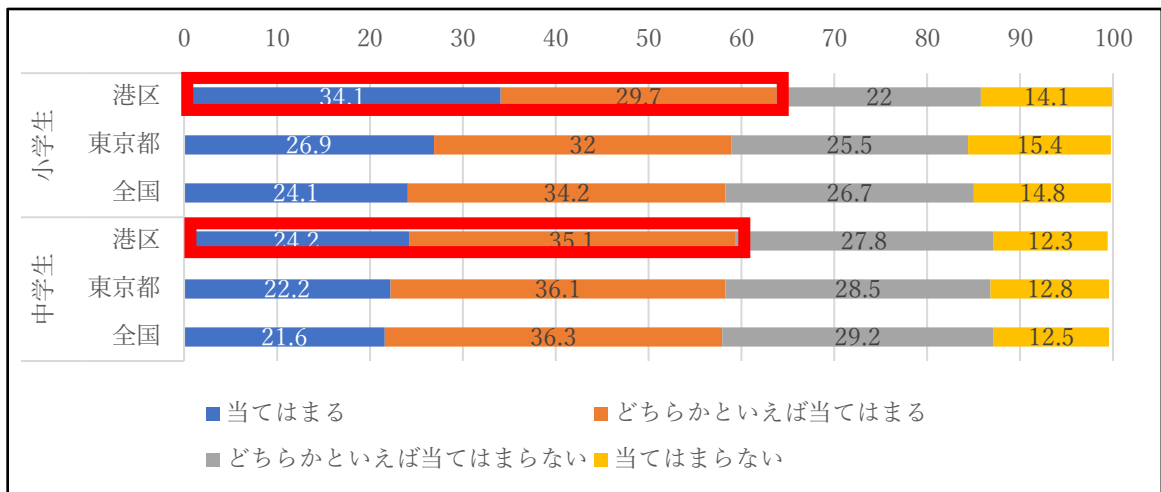
「生命」を柱とする領域において、比較的理解できていると考えられます。その他、特に「粒子」を柱とする領域において、課題があると考えられます。目に見えない「粒子」を見えるように捉えさせ、生徒の理解を図る必要があります。

3 質問紙に関する調査結果

(1) 国語科の学習について

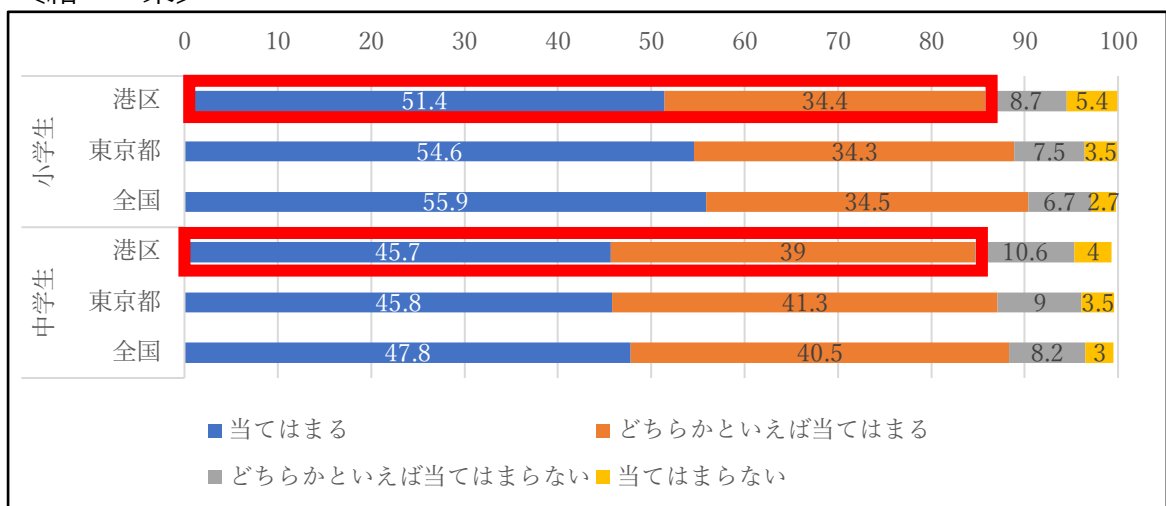
〔質問項目〕国語の勉強は好きですか。

〔結 果〕



〔質問項目〕国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

〔結 果〕



〔考 察〕

国語の勉強が好きであると答えた児童は63.8%で、生徒は59.3%でした。どちらも東京都と全国の割合を上回っています。

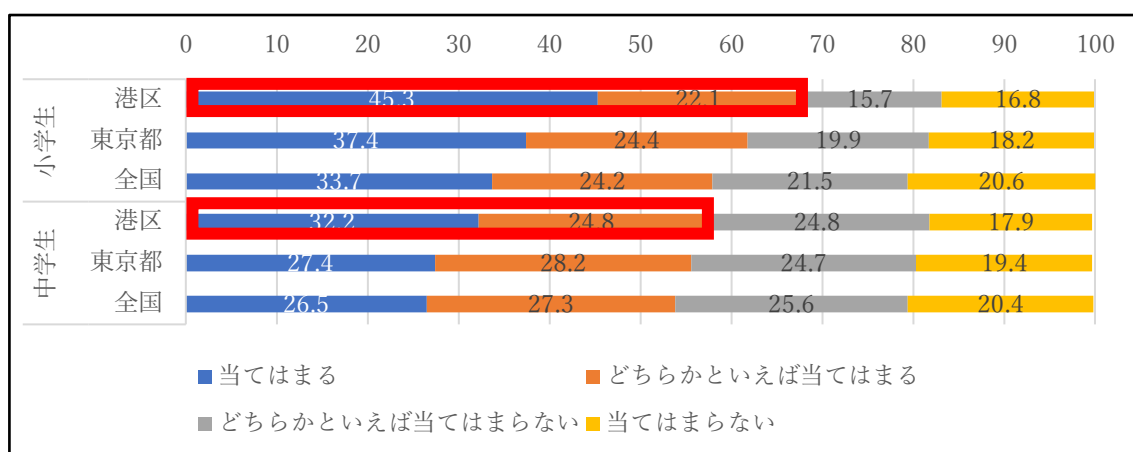
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと答えた児童は85.8%、生徒は84.7%でした。どちらも東京都と全国の割合を下回っています。

国語の勉強が好きと回答している児童・生徒が東京都、全国の割合を上回っているにもかかわらず、役に立つと思う児童・生徒は下回っています。児童・生徒には、国語の学習内容と社会生活の繋がりを実感させるアプローチが必要です。具体的には、社会生活に多くある情報を読み解く力、社会に向けて情報を発信する力は国語の学習内容と強く繋がりがあると考えます。児童・生徒が実際に社会にある情報を読み取り、自分の考えを発信する活動が効果的です。

(2) 算数科・数学科の学習について または算数・数学教育について

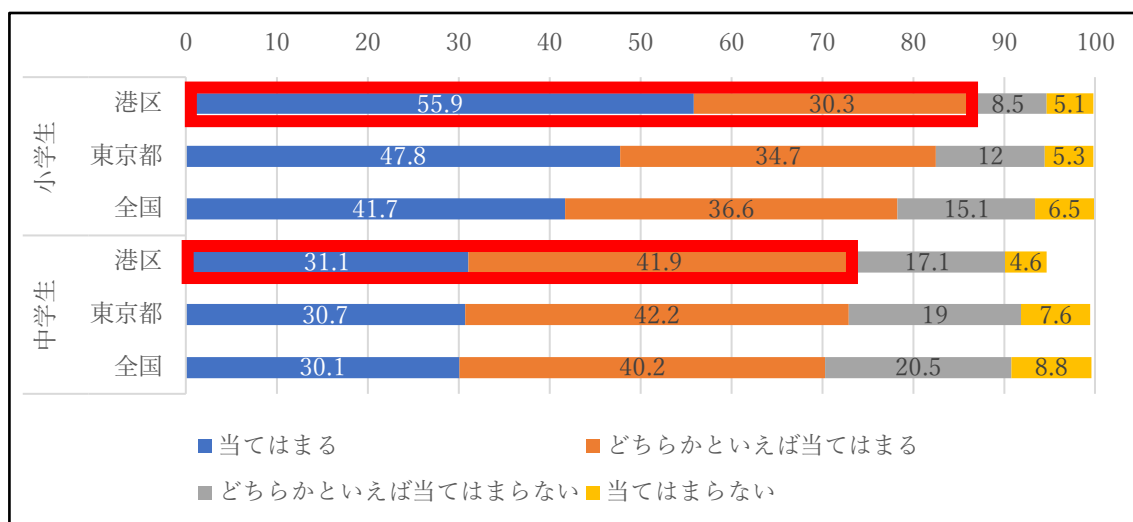
〔質問項目〕 算数・数学の勉強は好きですか。

〔結 果〕



〔質問項目〕 算数や数学の授業の内容はよく分かりますか。

〔結 果〕



〔考 察〕

算数の勉強が好きであると答えた児童は67.4%で、数学が好きであると答えた生徒は57.0%でした。どちらも東京都と全国の割合を上回っています。

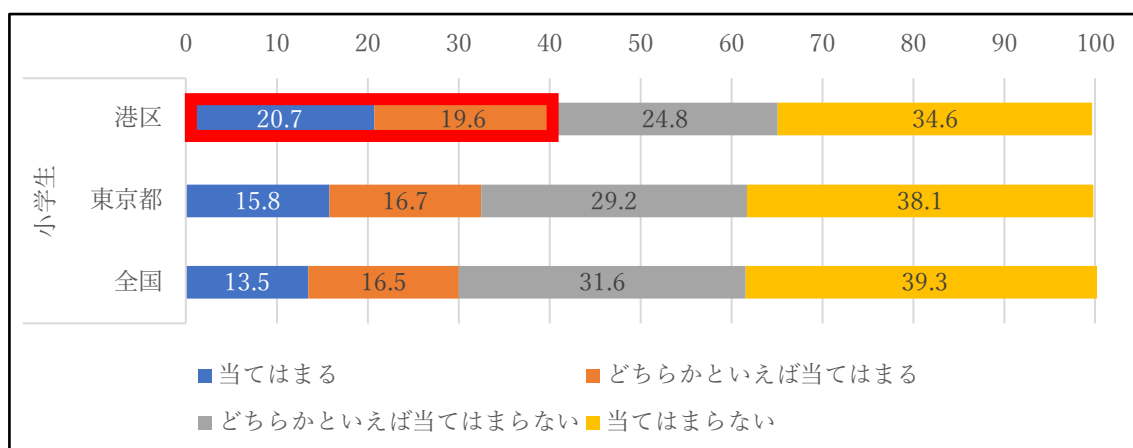
また、算数や数学の授業の内容はよく分かると答えた児童は86.2%、生徒は73.0%でした。どちらも東京都と全国の割合を上回っています。

算数・数学の授業内容の理解度について児童・生徒が、高い割合を示しています。小学校から中学校まで、計画的に取り組んでいる習熟度別・少人数指導において、児童・生徒個々の習熟度に合わせた指導の取組の成果であると考えられます。また、児童・生徒の授業内容の理解度が高まることで算数・数学が好きな児童・生徒の割合にも連動していると考えられます。

(3) 理科の学習について または理科教育について

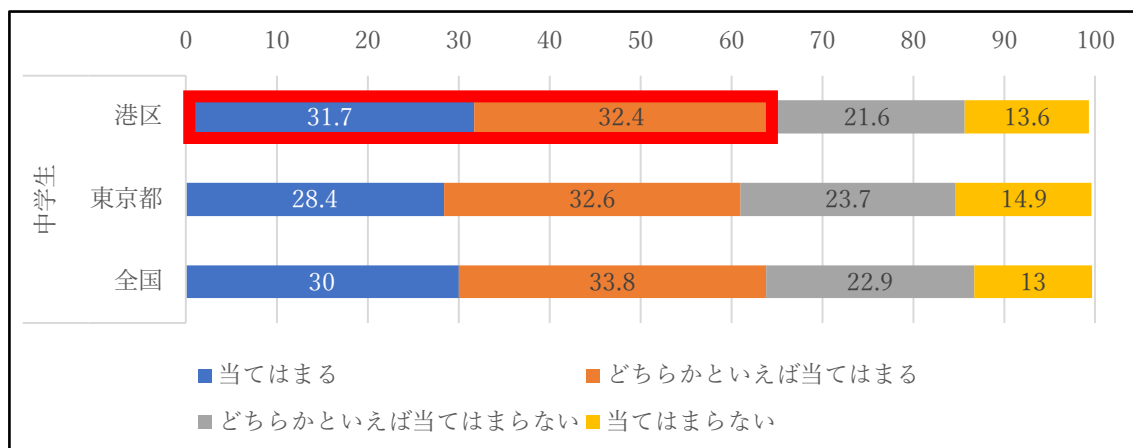
〔質問項目〕 将来、理科や科学の技術に関係する職業に就きたいと思いますか（小学生のみ）

〔結果〕



〔質問項目〕 理科の勉強は好きですか。（中学生のみ）

〔結果〕



〔考察〕

将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思うと答えた児童は、40.3%で、東京都と全国を上回っています。

理科の勉強が好きと答えた生徒は、64.1%で、東京都と全国を上回っています。

各校において、児童・生徒が興味関心をもつよう工夫した授業を展開し、さらにみなと科学館と連携してプラネタリウムや科学実験プログラムを活用することで実践的で興味深い学習機会を設定していることで、理科への関心が高くなっていると考えられます。

また、「令和7年度 区立幼稚園、小中学校で取組を強化する重点事業」にある「環境教育の充実」によって、自然環境やビオトープの活用推進やみなと子どもエコアクション事業の取組強化の成果であると考えられます。

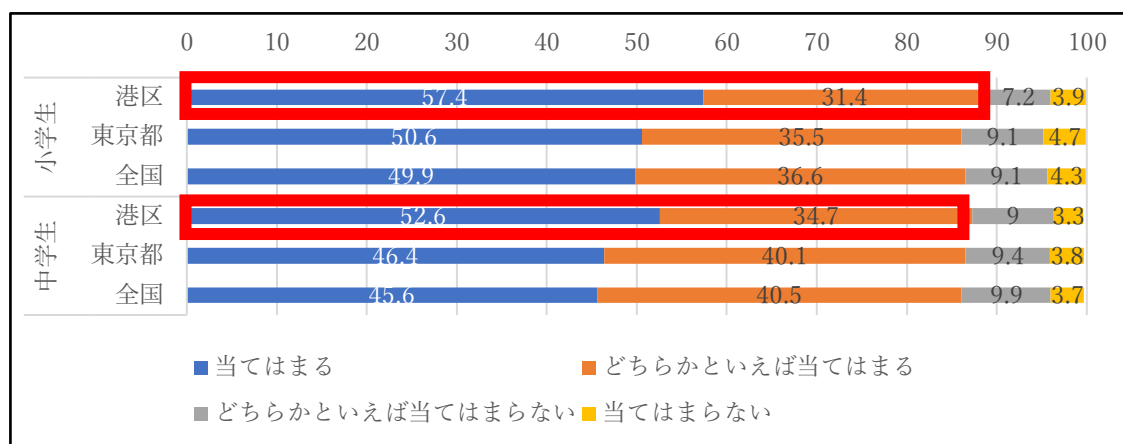
(4) 特徴的な項目について

【東京都・全国と比較し、数値が高かった項目】

① 学校について

〔質問項目〕 学校に行くのは楽しいと思いますか。

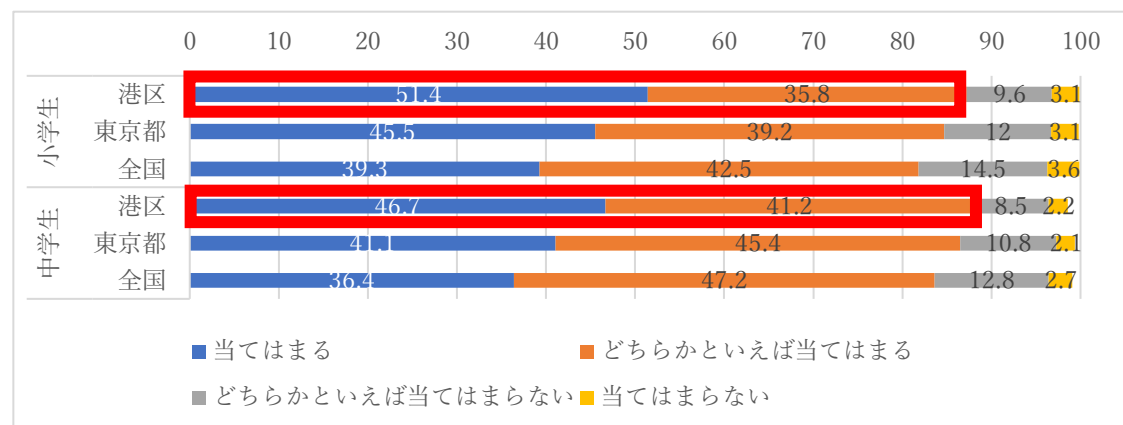
〔結 果〕



② ICT機器を使用した学習について

〔質問項目〕 自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか。

〔結 果〕



〔考 察〕

① 学校について

「学校に行くのが楽しい」と回答した児童は88.8%で、生徒は87.3%でした。どちらも東京都と全国の割合を上回っています。

港区教育推進プランや区独自の教育プログラムなど、充実した施設、設備が児童・生徒の学習意欲を高めていること、児童・生徒の悩み、相談について、SC、SSW、関係諸機関等と連携し、きめ細やかな心理的ケアのサポートが充実している点が大きく影響していると考えられます。

② ICT機器を使用した学習について

自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると回答した児童は87.2%、生徒は87.9%でした。どちらも東京都と全国の割合を上回っています。

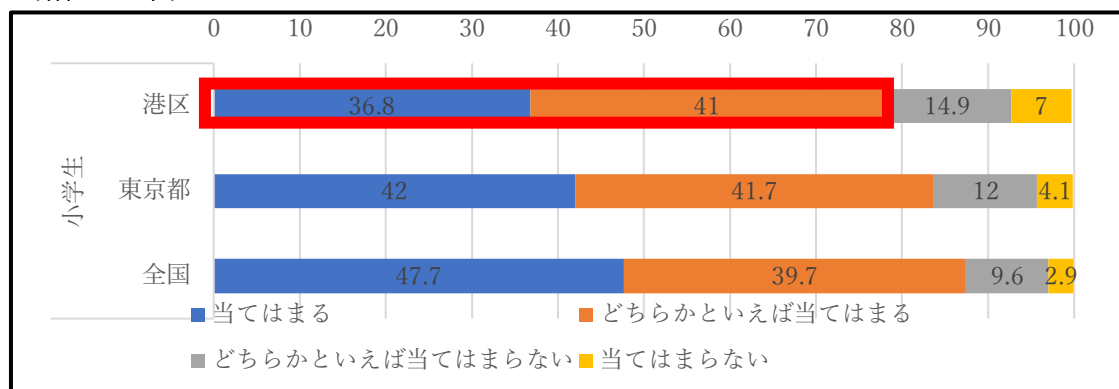
「令和7年度 区立幼稚園、小中学校で取組を強化する重点事業」にある特に取組強化する3事業の1つが「ICTを活用した学びの充実」です。GIGAスクール構想に基づき、児童・生徒1人1台のタブレット端末が配備され、日常的に学習で活用されている成果だと考えられます。今後さらに個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるため、ICTを活用した「複線型授業」を推進し、児童・生徒の学力向上につなげていきます。

【東京都・全国と比較し、数値が低かった項目】

① 授業について(児童質問)

〔質問項目〕先生は授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。

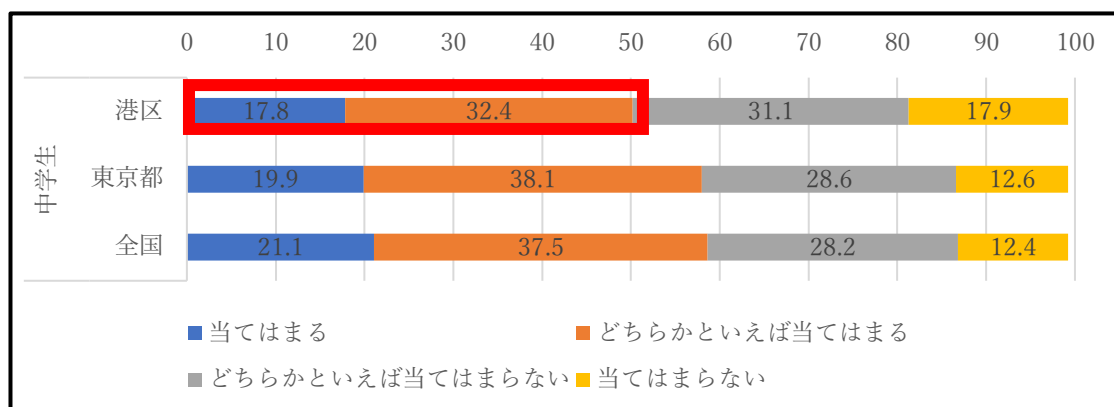
〔結 果〕



授業について(生徒質問)

〔質問項目〕数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか。

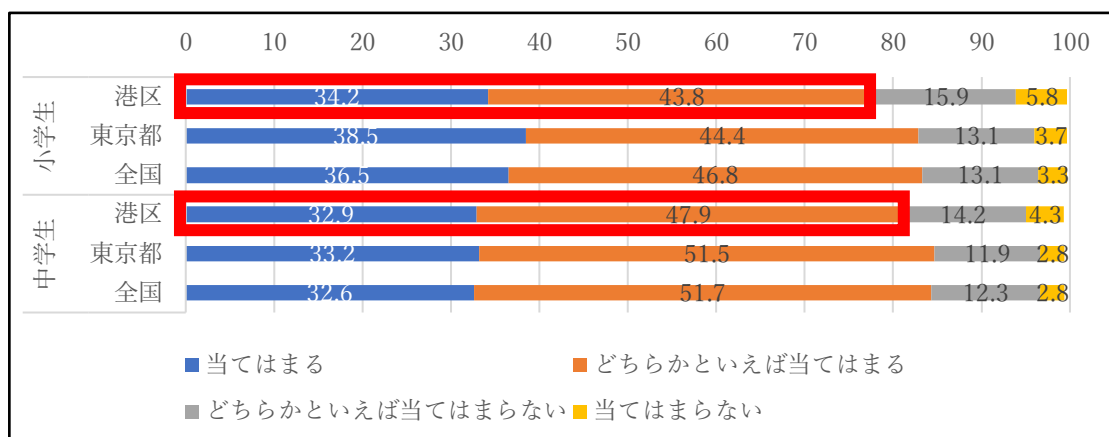
〔結 果〕



② 学級の様子について

〔質問項目〕あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。

〔結 果〕



① 授業について

先生は授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う児童は77.8%で、東京都と全国の割合を下回っており、全国の割合より9.6ポイント下回っています。

児童が学習を理解しているのかを正確に確かめることが必要だと考えられます。授業の展開で振り返りの場면을充実させ、児童が理解できていないまま学習が進まないよう、教師の支援が必要です。

数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていると思う生徒は50.2%でした。東京都の割合より7.8ポイント、全国の割合より8.6ポイント下回っています。

自分の考えをもち、表現する活動を充実させる必要があると考えられます。説明することは発言のみではなく、ICTを活用することでより説明の機会を多く設定できると考えます。学習活動を工夫する必要があります。

② 学級の様子について

学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると回答した児童は78%で、生徒は80.8%でした。どちらも東京都と全国の割合を下回っています。

児童・生徒が主体的に学級生活を送るために、自分たちで意見を出し合う機会をより充実させることが必要だと考えられます。

4 質問紙調査と平均正答率とのクロス集計（一部抜粋）

（１）新聞を読んでいますか。

<児童が回答した選択肢別の平均正答率>

| 選択肢 | | 児童数 | 児童数の割合(%) | 平均正答率(%) | | |
|-----|-----------------|-----|-----------|-------------|-------------|-------------|
| | | | | 国語 (14問) | 算数 (16問) | 理科 (17問) |
| 1 | ほぼ毎日読んでいる | 172 | 11.7 | 81.6 | 80.6 | 70.5 |
| 2 | 週に1～3回程度読んでいる | 207 | 14.1 | 79.3 | 80.1 | 69.8 |
| 3 | 月に1～3回程度読んでいる | 179 | 12.2 | 74.3 | 72.8 | 64.3 |
| 4 | ほとんど、または、全く読まない | 908 | 61.9 | 70.3 | 66.1 | 57.7 |

<生徒が回答した選択肢別の平均正答率、平均IRTスコア>

| 選択肢 | | 生徒数 | 生徒数の割合(%) | 平均正答率(%) | | 平均IRTスコア |
|-----|-----------------|-----|-----------|-------------|-------------|----------|
| | | | | 国語 (14問) | 数学 (15問) | |
| 1 | ほぼ毎日読んでいる | 19 | 2.6 | 56.4 | 62.5 | 523 |
| 2 | 週に1～3回程度読んでいる | 47 | 6.5 | 58.2 | 58.6 | 523 |
| 3 | 月に1～3回程度読んでいる | 59 | 8.1 | 54.4 | 51.0 | 501 |
| 4 | ほとんど、または、全く読まない | 564 | 77.7 | 54.2 | 50.0 | 482 |

「新聞を読んでいる」と答えた児童・生徒は、すべての教科で正答率が高い傾向が見られます。新聞を読む児童・生徒は、様々な社会の動きを知ることにつながり、知的好奇心が高めることが期待できます。

（２）朝食を毎日食べていますか。

<児童が回答した選択肢別の平均正答率>

| 選択肢 | | 児童数 | 児童数の割合(%) | 平均正答率(%) | | |
|-----|---------------|-------|-----------|-------------|-------------|-------------|
| | | | | 国語 (14問) | 算数 (16問) | 理科 (17問) |
| 1 | している | 1,186 | 80.9 | 74.4 | 71.8 | 62.7 |
| 2 | どちらかといえば、している | 163 | 11.1 | 71.4 | 68.9 | 61.0 |
| 3 | あまりしていない | 85 | 5.8 | 67.3 | 62.6 | 53.4 |
| 4 | 全くしていない | 32 | 2.2 | 60.6 | 56.5 | 50.9 |

<生徒が回答した選択肢別の平均正答率、平均IRTスコア>

| 選択肢 | | 生徒数 | 生徒数の割合(%) | 平均正答率(%) | | 平均IRTスコア |
|-----|---------------|-----|-----------|-------------|-------------|----------|
| | | | | 国語 (14問) | 数学 (15問) | |
| 1 | している | 548 | 75.5 | 56.0 | 53.8 | 496 |
| 2 | どちらかといえば、している | 86 | 11.8 | 52.2 | 47.1 | 469 |
| 3 | あまりしていない | 61 | 8.4 | 47.7 | 38.6 | 455 |
| 4 | 全くしていない | 31 | 4.3 | 49.5 | 41.3 | 446 |

「朝食を毎日食べている」と答えた児童・生徒は、正答率が高い傾向が見られます。正しい食生活と学力向上には密接な関係があります。

- (3) 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。

＜児童が回答した選択肢別の平均正答率＞

| 選択肢 | | 児童数 | 児童数の割合 (%) | 平均正答率 (%) | | |
|-----|------------------|-----|------------|-------------|-------------|-------------|
| | | | | 国語 (14問) | 算数 (16問) | 理科 (17問) |
| 1 | 当てはまる | 544 | 37.1 | 78.1 | 76.3 | 67.0 |
| 2 | どちらかといえば、当てはまる | 642 | 43.8 | 72.4 | 68.8 | 60.1 |
| 3 | どちらかといえば、当てはまらない | 214 | 14.6 | 68.8 | 66.5 | 58.5 |
| 4 | 当てはまらない | 62 | 4.2 | 60.3 | 56.5 | 46.7 |

＜生徒が回答した選択肢別の平均正答率、平均IRTスコア＞

| 選択肢 | | 生徒数 | 生徒数の割合 (%) | 平均正答率 (%) | | 平均IRTスコア |
|-----|------------------|-----|------------|-------------|-------------|----------|
| | | | | 国語 (14問) | 数学 (15問) | |
| 1 | 当てはまる | 175 | 24.1 | 57.1 | 58.1 | 508 |
| 2 | どちらかといえば、当てはまる | 378 | 52.1 | 54.6 | 50.5 | 488 |
| 3 | どちらかといえば、当てはまらない | 131 | 18.0 | 52.1 | 46.9 | 470 |
| 4 | 当てはまらない | 33 | 4.5 | 54.1 | 46.3 | 469 |

「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる」と答えた児童・生徒は、正答率が高い傾向にあります。これらの児童・生徒は、主体的に学習に取り組む態度を育むことが期待できます。